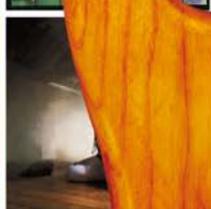
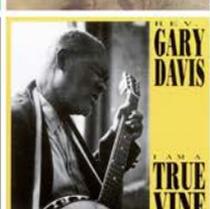
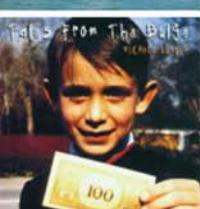
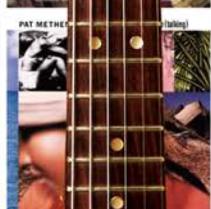
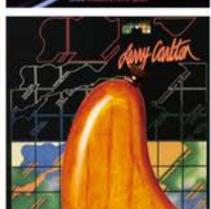
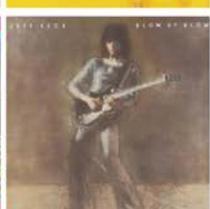
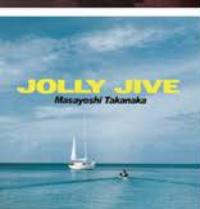
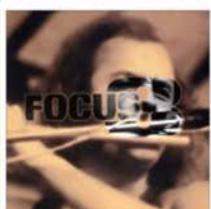
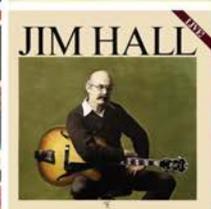
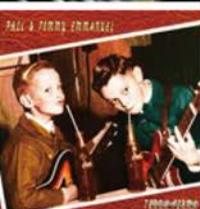
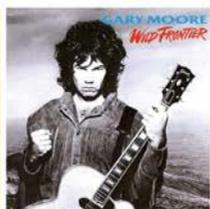
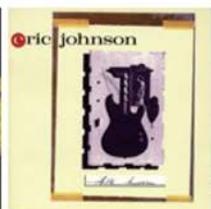


# 有識者が選んだ! あなたの知らない ギター・インストの世界!

**Guitar**  
magazine ギターマガジン  
presents



Ritmo Music



有識者が選んだ!  
あなたの知らない  
ギター・インストの世界!

**Guitar**  
【ギター・インスト】  
**Instrumental**

基本的には“歌が入っていない、楽器だけで演奏される曲”のことをインストゥルメンタル (Instrumental) と呼びます。そのインストゥルメンタルの中でも、特にギターが重要な役割をこなすものをギター・インストゥルメンタル、略してギター・インストと呼んでいます。

## はじめに

ギターが主役！の音楽というのは少し特殊とも言えるスタイルですが、映画やTVの音楽として頻繁に使われたりするその存在は意外に一般的で、ギター・インストを主体とするミュージシャンも数多く存在するという、実はひとつの確固たるカテゴリーを形成しているジャンル、それがギター・インストです。

しかしそのギター・インストに関する書籍は、市場を見渡してみると、ほとんど存在しないようです。素晴らしい“音楽ジャンル”のひとつなのに！ …それが本書を企画するにあたった理由です。

そしてせっかくギター・インストの本を作るのであれば、ギターを弾くのがとにかく好きだったり、ギター音楽に目がなかったり……ギターを愛する人たちの意見をギュギュギュ〜っとまとめたものを作りたいと思いました。そう、ギターをこよなく愛する人達＝有識者の方々の意思によって、すべてを構築した1冊にしたいと。

そこでまずはギター・マガジンの編集者、ギター系ライター、ギター講師の方々へのリサーチをはじめました。その時に最初に問題だと感じたのは「ギター・インストの定義」でした。“ギターが主旋律を弾いているものだよ？”“ギター・インストって言ったらサーフ系のインストでしょ！”“ギター1本の演奏はギター・インストかな？ソロ・ギターかな？”“ジャズだとインストが当たり前だけど、ああいうのはギター・インストって呼んでいいの？”などなど……有識者の方によって、その定義が異なるのです。

しかし定義がどうあれ、ギター音楽が好きになる者にとっては、そのどれも気持ちが良い音楽であることに変わりはありません。こちらで定義を決めて狭めてしまうのは惜しい！

そこで“ギター・インストの定義”は、有識者の方の判断にお任せすることにしました。例えばラテン系の曲によく見られる曲名を人が叫んだりする曲や一部で人の語りがある曲、あるいはモロに歌メロが入っている文字どおりの歌モノだとしても、選者にとって“この前奏や間奏の素晴らしさは、もはやギター・インストと呼んで良いレベル”と判断したならば、それはもうギター・インストなのです。ギター・インストという範疇でとらえたいほどに“ギターに存在感があり、ギターとして主張していて、ギターが人の心を揺さぶる曲”ということなのですね。

そんな“幅広い視点と基準”で選ばれたギター・インストの名演の数々を集めたのが本書です。ギター・インスト初心者の方からギター・インストに関してはかな〜り詳しいと自負している玄人の方まで、いろいろなレベル／状況の方にとって、“楽しみながら読めて、そして発見もある1冊”になったと思います。もしも本書に書かれていることをすべて知っていた、驚きはなかった！という方がいらっしゃったら……あなたは立派な“有識者”です。ぜひ次の機会があったら御参加いただきたいと思います。

なお本書にはアルバム・ジャケットの画像がいっぱい出てきますが、いわゆるディスク・ガイドではありません。ギター・インストの名演は深海に沈んだ宝石のごとく、歌モノ主体のアルバムの中に1曲だけ存在したりすることも多々あり、アルバム単位で楽しむもの、楽しめるものではない場合が多々あるからです。本書はあくまでもギター・インストの“名演”を紹介するガイドであり、併記されたアルバムの画像は名演が収録された場所の情報でしかありません。

# Introduction

そんな“ポツンと1曲だけ”な場合もあるギター・インストの名演ですが、現在は動画共有サイトなどの発達で、ほとんどの名演は“どんな演奏なのか？”を容易に検索して聴いて確認することができます。そういった際に検索しやすいように、本書では曲名などの表記に英字も多く使われています。“カナ表記から英字などのスペルがわかりにくいもの”と編集部が認定したものに関してはできる限り英字などの表記もつけるようにしました。

もしお気に入りの1曲／1名演が動画共有サイトや視聴音源などで見つかったら、ぜひキッチンとした音源を入手して最高の音質と環境でギター・インストを聴いてみてください。自分も本書の編集作業中、膨大なギター・インストを聴きましたが、もはや“歌”と呼んでも差し支えないくらい人の心動かす力に満ちた表現力たっぷりのギター演奏の数々には心躍らされっぱなしです。聴いていると毎日が今まで以上に楽しくなります。あなたに合った相性の良いギター・インストに出会うことができれば、きっとあなたの人生は、これまで以上にカラフルになるでしょう。そして本書で紹介されている名演の中には、必ずあなたにピッタリのギター・インストがあると思います。あなたにとって最高のギター・インストが見つかりますよう祈っております。

あなたがこれまで知らなかったギター・インストの素晴らしき世界へ、ようこそ！

本書編集担当：杉坂功太

はじめに.....	03
本書のおもなページの読み方.....	10

一度は聴いておきたい！

## ギター・インスト定番10曲! ..... 12

最前線で活躍する  
達人ギタリスト8人が選ぶ

## 私的ギター・インスト名演10選!

野呂一生.....	24
鈴木 茂.....	26
佐橋佳幸.....	28
小倉博和.....	30
松本孝弘.....	32
押尾コータロー .....	34
沖 仁 .....	36
マーティ・フリードマン .....	38

## さまざまなギター・インスト有識者がピックアップした 私的ギター・インスト名演10選!

相川浩二	41
安東 滋	42
井桁 学	43
石沢功治	44
いちむらまさき	45
井上秀雄	46
打田 十紀夫	47
海老澤 祐也	48
遠藤康之	49
岡 弘二	50
岡見高秀	51
小川智也	52
小倉よしお	53
梶原稔広	54
加納大嗣	55
亀井たくま	56
加茂フミヨシ	57
日下義昭	58
久保木 靖	59
ケリー・サイモン	60
小林信一	61
小林直樹	62
古森 優	63
近藤正義	64
坂口和樹	65
佐々木 秀尚	66
杉坂功太	67
鈴木健也	68
鈴木伸明	69
関口真一郎	70

高野 順	71
竹田 豊	72
田光マコト	73
谷 泰幸	74
トモ藤田	75
中島康晴	76
中村天佑	77
成瀬正樹	78
西沢フミタカ	79
西山隆行	80
額賀正幸	81
野口広之	82
野田雅之	83
野村大輔	84
橋本修一	85
馬場雅之	86
林 幸宏	87
Hidenori	88
尾藤雅哉	89
藤岡幹大	90
細川真平	91
堀沢俊樹	92
松井祐貴	93
丸山正剛	94
三上裕介	95
道下和彦	96
南澤大介	97
宮脇俊郎	98
矢堀孝一	99
山口和也	100
山本 彦太郎	101
養父 貴	102
渡辺具義	103

## ギター・インストがもっともっと楽しくなる！ あなたの知らないギター・インストの話

ブルース・ギターの基本が学べるギター・インスト	106
黒人カントリー・ブルースマンによるインストの名演	108
ブルース+αの重ね味ギター・インスト	110
80'sを軸に見るロック・ギター・インスト・スタイル	114
弾けるもんなら弾いてみる！超絶何度のギター・インスト達	116
速弾きという視点で楽しむギター・インストの世界	118
ギターをフィーチャーしたジャズ黄金期のビッグバンド	120
独奏の達人が語るギター1本のインスト	122
カントリー系ギター・インストの定番名演とお宝名演ガイド	124
クロスオーバーから始まった日本のギター・インスト・シーン	126
ギター・インストの名企画『GUITAR WORKSHOP』	128
“国産”ギター・インスト、その魅力と特徴の私的考察	130
TVや映画で奏でられたギター・インストの世界	132
TVの音効/選曲屋が愛するギター・インスト	134
サマ〜な夜の特選ギター・インスト集	136

### 【あなたの知らないギター・インストの話】

執筆者：いちむらまさき、打田十紀夫、海老澤祐也、久保木 靖、古森優、近藤正義、佐々木 秀尚、成瀬正樹、Hidenori、細川真平、南澤大介、山口和也

### 【私的名演の登場回数ベスト】

◎ギタリスト◎アルバム	104
◎名演	139

おわりに	142
------	-----

# 本書のおもなページの読み方



① 10選を選んだ有識者の名前

② 有識者のギター歴

③ 有識者のバンド名など

④ 選んだ名演: 上からアーティスト名、曲名 (色付きの文字)、収録アルバム名の順。

アーティスト名は基本的にカナ表記ですが、英字スペルなどを間違いやすい or 推測しにくいかも? と編集部が判断したものは英字表記も入れています。ギタリストの交替があったバンドやセッション参加など、ギタリスト名が判断しにくい場合は、g:○○○といったように演奏ギタリスト名を入れたものもあります。曲名やアルバム名は国内盤があるものは邦題を基本としています。前述のアーティスト名と同様の理由で原題も表記している場合があります。

⑤ 収録アルバムのジャケット

⑥ 選者による、ギター・インストに対するフリー・コメント・スペース (選んだ名演に関しての聴き所、etc)

⑦ 有識者のおもな肩書き

⑧ 有識者の簡単なプロフィール

## 私的ギター・インスト名演10

リットーミュージック

名前

ギターマガ人

プロフィール

1980年12月創刊の老舗ギター雑誌の輪を担う有識者。

①

④

※1ページの場合は  
左から右に  
アーティスト名、  
曲名、  
収録アルバム名です。

アーティスト名	曲名	収録アルバム名
① ジェフ・ベック	【哀しみの恋人達】 原題: Cause we've ended as lovers	【フロウ・バイ・フロウ】
② サンタナ E:カロス・サンタナ	【哀愁のヨーロッパ】 Europe (Earth's Cry Heaven's Smile)	【アミーゴ】
③ ラリー・カルトン	【ルーム335】 原題: Room335	【夜の彷徨】 原題: Lenny Carlton
④ 高中正義	【Blue Lagoon(ブルーラグーン)】	【JOLLY JIVE!】
⑤ ザ・ベンチャーズ	【パイプライン】	【ダイヤモンド・ヘッド〜ベン チャーズ・ベスト】
⑥ 渡辺香津美	【ユニコーン】	【TO CHI KAI】
⑦ カシオペア	【ASAYAKE(朝焼け)】	【Mint Jams】
⑧ ゲイリー・ムーア	【パリの散歩道】 原題: Parisienne Walkways	【Live at The Marquee】
⑨ ザ・マイケル・シェンカー・グループ	【イントゥ・ジ・アリーナ】 原題: Into The Arena	【俺(僕)ってきたフライング・アロウ】 原題: The Michael Schenker Group
⑩ スティーヴィー・レイ・ヴォーン	【スカトル・バツティン】 原題: Scuttle Buttin'	【テキサス・ハリケーン】 原題: Couldn't Stand the Weather

⑥

※10曲の収録アルバム名を省略しています。

「ギターをこよなく愛する皆様にギター・インスト(ギター・インストゥルメンタル)の名演を私的センスで10曲選んでいただく」が輪の書籍であり、そのギター・インストの定義も私的センスで定義づけてOKということですが、あくまでも“名曲”ではなく“名演”なので「誰が」演奏した「どのバージョン」かも明記しつつ、このスペースで①~⑩に関するの聴き所、あるいはギター・インストへの想いなども書いていただきたいと思います。



⑤

# 01

曲名

## 「哀しみの恋人達」

原題: Cause we've ended as lovers

文: 近藤正義



アーティスト名

ジェフ・ベック



『ブロー・バイ・ブロー』

## 泣きの定番インスト・バラード曲!

ジェフ・ベック初の全曲インスト・アルバム『ブロー・バイ・ブロー』(1975年作品)に収録されていた、泣きの定番インスト・バラード曲。シングル・カットもされており、インストのジェフ・ベックという印象を決定づけた。一部ほんの数秒でストラトキャスターが使われている可能性がある他は、ほぼ全編がハムバッカーをマウントしたテレキャスター、通称テレギブで演奏されており、粘りのある上質なオーバードライブ・トーンを聴かせてくれる。目を閉じて聴けば、演奏時におけるフィンガリングの細かい動きまでが手に取るように感じられる、そんなスーパー・トーンである。テレキャス・タイプなのにイントロ部分でヴォリューム奏法ができるのは手の大きさゆえの仕業。まだジェフがピックを使って弾いている時代でもあり、随所に炸裂するピッキング・ハーモニクスも堪能できる。

非情に印象的なソロ・パートはたいへんメロディアスに練られており、決して雰囲気一発のソロではない。しかしこれほどまでに完成度の高いソロを一気に弾き切ることができたのは驚異的だ。その後、ジェフ本人がライブで演奏する際にはこのオリジナル・テイクとは違い、その都度まったく別の展開によるソロを弾いているが、それでもソロ終盤近くにおける3弦上をハミング・オンとプリング・オフで12~13フレットから0~1フレットまで下降してくるフレーズだけは、いつも似た雰囲気でお約束のように弾いてくれている。

# 最前線で活躍する 達人ギタリスト8人が選ぶ 私的ギター・インスト 名演10選!

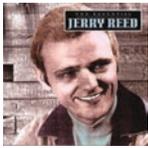
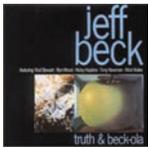
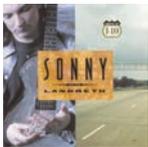


さまざまな有識者が  
各々の私的センスで名演を選ぶ40ページ以降のコーナー。  
そこで選ばれた名演を演奏するギタリストの中から、  
スタイルの異なる8人のギタリストに  
私的ギター・インスト名演をセレクトしてもらいました。  
いわば“有識者が選んだ有識者”である究極の8人。  
彼らが選んだギター・インストの名演とは?  
各自のギター・インストの定義も含めて、  
達人らしさが滲み出た選曲の奥深さにうなるべし!

※有識者の掲載順は“ギター歴順”です。

# 私的ギター・インスト名演10

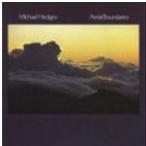
アーティスト名  
曲名  
収録アルバム名

<p>名前</p> <h2>鈴木茂</h2> <p>ギター歴 45 年</p> <p>所属(バンド名)</p>	
<p>ロニー・マック (Lonnie Mack)</p> <p>① <b>「Memphis」</b></p> <p>『(For Collectors Only) The Wham of Memphis Man!』</p>	
<p>ジェリー・リード (Jerry Reed)</p> <p>② <b>「The Claw」</b></p> <p>『The Essential』</p>	
<p>トラフィック (Traffic)</p> <p>③ <b>「Something's Got a Hold of My Toe」</b></p> <p>『Last Exit』</p>	
<p>ジェフ・ベック</p> <p>④ <b>「グリーンスリーブス (Greensleeves)」</b></p> <p>『Truth &amp; Beck-Ola』 ※ 2in1。「トゥルース (Truth)」のみに収録。</p>	
<p>サニー・ランドレス (Sonny Landreth)</p> <p>⑤ <b>「ネイティヴ・ステップサン (Native Stepson)」</b></p> <p>『サウス・オブ・I-10 (South of I-10)』</p>	

# 私的ギター・インスト名演10

アーティスト名  
曲名  
収録アルバム名

<p>名前</p> <h2>押尾コータロー</h2> <p>ギター歴 <b>33</b> 年</p>	
<p>所属(バンド名)</p>	

<p>中川イサト</p> <p>① <b>「らぐーん」</b></p> <p>『Homespun Music』</p>	
<p>岡崎倫典</p> <p>② <b>「午前3時のメリーゴーランド」</b></p> <p>『Bayside Resort』</p>	
<p>小松原俊</p> <p>③ <b>「雪どけ」</b></p> <p>『SCENE』</p>	
<p>マイケル・ヘッジス</p> <p>④ <b>「Aerial Boundaries」</b></p> <p>『Aerial Boundaries』</p>	
<p>ピエール・ベンスーザン (Pierre Bensusan)</p> <p>⑤ <b>「Adios Muchachos」</b></p> <p>『Musiques』</p>	

プロ・ギタリスト、ギター講師、ギター雑誌編集者、etc  
さまざまなギター・インスト  
有識者がピックアップした

# 私的ギター・インスト 名演10選!



ギターを演奏するプロ、  
ギターを教えるプロ、  
ギターの本を作るプロ、

多彩なギターのプロ＝有識者63人が選んだ  
延べ630に及ぶギター・インストの名演を一挙に紹介。

異なる視点で選ばれた最高の演奏郡は  
すべて要チェックです!

※ここからは有識者の掲載順は“アイウエオ順”です。

# 私的ギター・インスト名演10

元ギター・マガジン編集部員(1998~2000年頃)	プロフィール リズム&ドラム・マガジン、ベース・マガジン、ギター・マガジンの3誌編集部を経て、2015年2月現在、出版部に在籍中。
名前 <b>三上裕介</b>	

アーティスト名	曲名	収録アルバム名
① 高中正義	「Ready To Fly」	「Super Takanaka Live!」
② 高中正義	「You Can Never Come To This Place」	「虹伝説~ザ・レインボウ・ゴブリンズ (The Rainbow Goblins)」
③ ザ・ベンチャーズ	「ダイヤモンド・ヘッド」	「ベンチャーズ・ベスト」
④ カシオペア	「スペース・ロード」	「Thunder Live」
⑤ 渡辺香津美	「ユニコーン」	「TO CHI KA」
⑥ ジェフ・ベック	「エル・ベッコ (El Becco)」	「ゼア・アンド・バック」
⑦ アル・ディメオラ	「レース・ウィズ・デヴィル・オン・スパニッシュ・ハイウェイ」	「エレガント・ジブシー」
⑧ ラリー・カールトン	「ルーム335」	「夜の彷徨」 原題: Larry Carlton
⑨ ザ・マイケル・シェンカー・グループ	「キャプテン・ネモ」	「限りなき戦い」 原題: Built To Destroy
⑩ ビル・ウィーラン (Bill Whelan)	「Firedance」	「Riverdance: Music From The Show」

私的名演の聴き所・オススメのポイントなど

“ギター・インスト”を聴く時は、ギターだけを聴いてしまいがちですが、たまにドラムやベースにも耳を傾けると、ちょっと自分が“オトナ”になった気分に浸れます。⑤はスティーヴ・ジョーダン&マーカス・ミラー、⑦はレニー・ホホワイト&アンソニー・ジャクソンなどなど。……①はスタジオ盤のイントロもオススメ。③は、私が初めて通して弾けるようになった曲。④⑤⑦の凄テクには今も憧れます。ジェフ・ベックはどの曲もオススメですが、ここでは緊張と緩和が劇的に交差する⑥を。⑩はギター・インストというにはギリギリOUTかもしれませんが、とてもカッコイイのでぜひ!



## 私的ギター・インスト名演10

<p>編集者(『ソロ・ギターのしらべ』シリーズ、etc)／ ギター・マガジン編集部(1995～2000年)</p>	<p>プロフィール 14歳の時、中二病をこじらせギターを手にする。以来、中二病由来の“ちょっと捻った音楽の聴き方”が定着。取材でバケットヘッドに会った際、彼の生き方に強い感銘を受け、以後、師と崇めている。</p>
<p>名前 <b>額賀正幸</b></p>	

アーティスト名	曲名	収録アルバム名
① ヴァン・ヘイレン	「イラプション (Eruption)」	『炎の導火線』 原題: Van Halen
② ヴァン・ヘイレン	「スパニッシュ・フライ (Spanish Fly)」	『伝説の爆撃機』 原題: Van Halen II
③ ヴァン・ヘイレン	「大聖堂」 原題: Cathedral	『ダイヴァー・ダウン』
④ ヴァン・ヘイレン	「リトル・ギター(イントロ)」 原題: Little Guitars(Intro)	『ダイヴァー・ダウン』
⑤ サンタナ	「哀愁のヨーロッパ」 原題: Europa (Earth's Cry Heaven's Smile)	『アミーゴ (Amigos)』
⑥ ジェフ・ベック	「哀しみの恋人達」 原題: Cause we've ended as lovers	『ブロー・バイ・ブロー』
⑦ バケットヘッド (Buckethead)	「Machete」	『Colma』
⑧ アラン・ホールズワース	「Tokyo Dream」	『ロード・ゲームス (Road Games)』
⑨ スティーヴ・ヴァイ	「フォー・ザ・ラヴ・オブ・ゴッド」	『パッション・アンド・ウォーフェア』
⑩ イングヴェイ・マルムスティーン	「マーチング・アウト (Marching Out)」	『マーチング・アウト』

私的名演の聴き所・オススメのポイントなど

メロディ・センスに焦点を絞って選出しました。①～④は、語られることの少ないエディのメロディ・センスに着目すると、新しい発見があると思います。例えば、①は曲が進むにつれ、メロディアスになっていく点など。⑤～⑥は、出だしの数音で“勝負あり！”の歴史的名演。⑦～⑨は、変態ギタリストのメロディアス・ナンバー。こういったメロディアスな部分も持ち合わせているからこそ、対極にある変態センスが際立つのだと思います。⑩はアドリブで弾いただけのような地味な曲ですが、イングヴェイの根底にあるメロディ・センスが垣間見られる作品。イントロ以外の非クラシカルなプレイが興味深いですね。



# 私的ギター・インスト名演10

ギター・マガジン編集部(1992年~1999年)	プロフィール 1968年製。基本はただのギター好き。ギター・マガジン卒業後はベース・マガジン、ダンス・スタイル、サックス&ブラス・マガジンを経て、現在は「ギター無窮動トレーニング」をはじめとしたギター教本を編集集中。
名前 <b>杉坂功太</b>	

アーティスト名	曲名	収録アルバム名
① ザ・マイケル・シェンカー・グループ	【 <b>ビジョー・プレジュレット</b> 】 (Bijou Pleasurette)	【神(帰ってきたフライング・アロウ)】 原題: The Michael Schenker Group
② コージー・パウエル E. デイヴ・クレムソン	【 <b>ザ・ローナー(ジェフ・ベックに捧ぐ)</b> 】	【オーヴァー・ザ・トップ】
③ ゲイリー・ムーア	【 <b>スパニッシュ・ギター</b> 】	【スパニッシュ・ギター〜ベスト】
④ スティーヴ・モーズ・バンド ※アル(バート・リー)と共演	【 <b>General Lee</b> 】	【The Introduction】
⑤ レニー・ブrou&チェット・アトキンス (Lenny Breau and Chet Atkins)	【 <b>Batucada</b> 】	【Standard Brands】
⑥ スティーヴ・ヴァイ	【 <b>アティテュード・ソング</b> 】	【フレクサブル】
⑦ ジェフ・ベック・グループ	【 <b>デフィニットリー・メイビー</b> 】 (Definitely Maybe)	【ジェフ・ベック・グループ】
⑧ ヘルキャストーズ (The Hellecasters)	【 <b>Highlander Boogie</b> 】	【The Return of The Hellecasters】
⑨ アル・ディ・メオラ	【 <b>ナイト・リズム</b> 】 原題: Ritmo De La Noche	【エレクトリック・ランデヴー】
⑩ パット・メセニー	【 <b>ついておいで</b> 】 原題: Are You Going with Me	【オフランブ】

私的名演の聴き所・オススメのポイントなど

思いついた順にあげてみたら、大雑把には“泣きのギター(①②③⑦⑨⑩)” or “カントリー風味含む系(④⑤⑧)” ってな2択が基本の雰囲気になり、案外自分のギター趣味の一端が露骨に出るものだと感心(⑥のみ例外……“笑うジャグリング系”としておきます)。③は彼の“泣き名曲”の中でも地味な存在なんでもう少し知名度上げたくて、⑨は私的アル・ディメオラの原体験ゆえに(ギター・インストとしての原体験はおそらくライオットの「Narita」かサンタナの「I Love You Much Too Much 哀愁の旅路」)、⑩ギター・シンセ(前半は鍵盤のソロ、後半から登場)はあまり好きではないのに聴くほどに“なんてギターらしい演奏なんだ!”と思わせる情感……個別に言い訳しておきたいのはそれくらい。まあ10個と決めたのは本書編集担当の自分なのですが、他にもあげたかったのはジョン・ウィリアムズの「Cavatina」とか……(見苦しいのでフェイドアウト)。



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

# 私的ギター・インスト名演10

ギター・マガジン編集部(2000年~2004年)	プロフィール 1979年千葉県出身。ジャズ・ギターの基礎、音楽理論などを友寄隆哉氏に師事。2000年にGM編集部にて配属され、2004年から同誌ムックなどを制作。担当した書籍に『最後まで読み通せる音楽理論の本』、『ロックで学ぶ世界史』など。
名前 <h2>橋本修一</h2>	

アーティスト名	曲名	収録アルバム名
① ゴング	<b>「創造主」</b> <small>原題: Master Builder</small>	「ユー」
② ソフト・マシーン <small>g: アラン・ホールズワース</small>	<b>「ハザード・プロフィール・パート1」</b> <small>(Hazard Profile, Pt. 1)</small>	<b>「収束」</b> <small>原題: Bundles</small>
③ アシッド・マザー・テンブル& ザ・メルティング・パライズ・U.F.O.	<b>「Blue Velvet Blues」</b>	<b>「Pataphysical Freak Out Mu!!」</b>
④ テリエ・リビダル(Terje Rypdal)	<b>「サンライズ」</b>	<b>「未知への飛翔」</b> <small>原題: Rypdal Vitous Dejohnette</small>
⑤ ジョン・アバークロンビー	<b>「Sorcery 1」</b>	<b>「Gateway」</b>
⑥ 友寄隆哉	<b>「鳥の歌: Bird' s Song(Spanish Folk Song)」</b>	<b>「Takaya Tomoyose Works 2」</b>
⑦ カート・ローゼンウィンケル	<b>「マイナー・ブルース」</b>	<b>「ザ・ネクスト・ステップ」</b>
⑧ ベン・モンドー	<b>「Dust」</b>	<b>「Dust」</b>
⑨ マイク・モレノ(Mike Moreno)	<b>「In a Silent Way」</b>	<b>「First in Mind」</b>
⑩ モグワイ	<b>「モグワイ・フィア・サタン」</b> <small>(Mogwai Fear Satan)</small>	<b>「モグワイ・ヤング・チーム」</b>

私的名演の聴き所・オススメのポイントなど

ギターのアドリブは長ければ長いほど良いというものですが、長尺アドリブといえばジャズ・ロックかサイケと相場は決まっています。①②は70年代サイケの集大成のインスト曲。③はそれを現代に受け継いだ日本のバンドによるトリップ・チューン。④⑤はジャズ寄りの文脈で、ECMが誇る“早過ぎた天才” テリエ・リビダルと、重鎮アバークロンビー。⑥はそれを踏襲した沖縄のジャズ・ギタリストが、スペイン民謡をジャズ・ロックに料理。現代ジャズ⑦~⑨もサイケ的な耳で聴けば新しい楽しみ方ができます。最後の⑩は、“他の可能性”を捨てて、決まったバンドでの決まったスタイルに特化してしまえば、ファズとディレイだけで世界を変えられることを証明した1曲を。



ギター・インストが  
もっともっと楽しくなる!

# あなたの知らない ギター・インストの話



ブルース系のギター・インストが好き!  
超テクニカル系ギター・インストを弾くのが最高!

ギター・インストをBGM的に楽しみたい!

リスナー的な視点、

ギター演奏者の視点、

はたまた音響効果・DJ的な視点、

ギター・インストを堪能する角度は

ひとつではないのです。

興味のある“話”から、

つまみ読みしてください!

//////////

# ブルース+αの 重ね味ギター・インスト

～ブルースの多彩な世界～

ギター・インストの世界にもさまざまなジャンルがありますが、ここでは“ブルース+α”なギター・インストを取り上げたいと思います。ブルース系の曲は多くの場合ボーカル入りであることが多く、“ブルース系ギター・インスト”と呼べる楽曲は実は意外と多くはないのです。しかしその世界は奥深く、それぞれのギタリストの特徴が色濃く現れており、さまざまなバリエーションの曲がたくさんあります。その中でも選りすぐりの名演をスペースの許す限りご紹介したいと思います。

まずはスティーヴィー・レイ・ヴォーンの「Scuttle Buttin'」(①)。最も有名なブルース・ギター・インストといえこれでしょう！あのドライブ感あふれるリフは誰もが挑戦したくなりますね。レイ・ヴォーンについては、多くのギタリストがリスペクトを込めて彼の名前を含んだインストを残しています。アルバート・コリンズの「Blues For

Stevie」(②)、アンディ・ティモンズの「Remember Stevie」(③)、ジェフ・コールマンの「Cosmo Ray Vaughn」(④)、ジョン・フィン「If Stevie Ray Vaughan Went to Berklee and Studied Jazz」(⑤)などなど。特に⑤などはタイトルどおりの曲で、実際聴いてみると思わず笑ってしまいます。クリス・デュアーテの「C-Butt Rock」(⑥)、ジョン・メイヤーの「Lenny (Live At The X-Lounge)」(⑦)、ケニー・ウェイン・シェパードの「Ledbetter Heights」(⑧)なども、レイ・ヴォーンに多大な影響を受けていることがわかるギタリスト達のインスト曲です。ヤードバーズの「Jeff's Boogie」(⑨)はジェフ・ベックのユーモアがあふれた名曲。グレゴール・ヒルデンの「Greg's Boogie」(⑩)、リッチー・コッツェンの「Richie's Boogie」(⑪)など、いろんなギタリストが同曲にインスパイアされ、「○○'s Boogie」として演奏しています。ジェフ自身の近年の曲ではライブの



① [Couldn't Stand the Weather] Stevie Ray Vaughan



② [Guitar World Presents Guitars That Rule The World] V.A. Albert Collins



③ [That Was Then, This Is Now] Andy Timmons



④ [Silence in the Corridor] Jeff Kollman



⑤ [Wicked] Jon Finn Group

※欄外の画像は本文に登場した名演が収録されているアルバムです。

# 独奏の達人が語る ギター1本のインスト

～ソロ・ギター・スタイルと私～

アコースティック・ギター1本での演奏、いわゆる“ソロ・ギター・スタイル”によるギター・インストとの出会いは、私が学生の頃。級友に勧められて聴いたイエス『こわれもの』の中に収録されていた、スティーヴ・ハウのソロ・ギター曲「ムード・フォー・ア・デイ (①)」だったと思います。

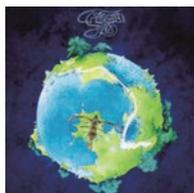
今にして思えば、ロックというよりもクラシカルなインストでしたが(プログレですね)、なんとカッコイイ曲だと夢中になりました。確かギター・マガジンに楽譜が掲載されていて、最初に自分で弾いたソロ・ギター曲もたぶんこれでした。

同じ頃、ニュー・エイジ・ミュージックのブームに乗ってウィンダム・ヒル・レーベルの音楽がラジオからよく流れており、そんな中で知ったのがウィリアム・アッカーマンの「壁と風 (②) 原題: The Wall And The Wind」(同じ演奏を重ねている録音のため、厳密に言うところ

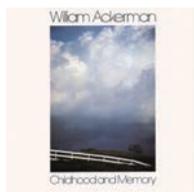
ではないのですが)やマイケル・ヘッジスの「エアリアル・バンダリーズ (③)」、アレックス・デ・グラッシの「ウィンドウ (④)」でした。

いずれもオープン・チューニングを使うのですが、アッカーマンは開放弦の響きを生かした不思議なコード感を持っています。ギターを持って森に入り、適当にチューニングして(!)弾いているうちに曲ができる…という彼の逸話を聞いたことがあります。他にも「アンの唄(Anne's Song)」「プロセッショナル(Processional)」「ブリックレイヤー家の美しい娘(The Bricklayer's Beautiful Daughter)」(いずれも『パッセージ(Passage)』他に収録)などの名曲があります。

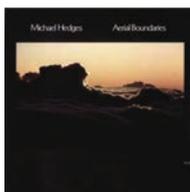
ヘッジスには、技術と知識を駆使した発想勝負の美しさのようなものを感じました(正直言うと、最初に聴いた時には何がどうなっているのかよくわかりませんでした)。ひとつのアイデア



① Yes (g : Steve Howe)  
[Fragile]



② William Ackerman  
[Childhood And Memory]



③ Michael Hedges  
[Aerial Boundaries]

※欄外の画像は本文に登場した名演が収録されているアルバムです。



# カントリー系ギター・インストの定番名演とお宝名演ガイド

カントリー・インストでは、アコギならマーティン、エレキならグレッチとフェンダー・テレキャスター使用が多いです。

主な奏法スタイルとしては、アコギとグレッチではベースとコードとメロディを同時に弾くギャロッピング奏法、テレキャスでは複音チョーキングやチキン・ピッキングを多様する速弾きと言えるでしょうか。いずれのスタイルでも、ピックと共に指も使ってピッキングすることで、離れた弦の音程を同時に鳴らすことが可能になります。逆に言えば「難しすぎ」な面もありますが、その腕前があるからこそ、カントリー系奏者はスロー・バラードでもニュアンスを第一に表現できる演奏が可能なのです。

今回は多くのギタリストを紹介するスペースはないので、重要7アーティストを紹介しますが、1曲も聴いたことなかったという人は、まずは“カントリー・ギター”を聴いて、驚いてください。

## アーティスト1

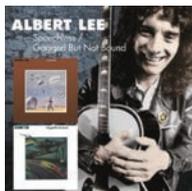
フェンダー社が最初にエンドース契約をしたギタリスト、ジミー・ブライアントの「Stratosphere Boogie①」は、ダブル・ネック・ギター12弦側で、2本ごとの弦を3度のハーモニー・チューニングにして、ひとりで2人分のメロディをプレイする曲。ジミーは、ジャズ・カントリーと呼ぶのが相応しいプレイを中心に、「Arkansas Traveler」などのフル・ピッキングの速弾きを、「Boogie Man」ではファンクっぽいプレイも披露しました。

## アーティスト2

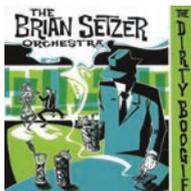
「Country Boy」のバカテク速弾きで知られているアルバート・リー。基本は歌曲の人ですが、2枚だけインスト・アルバムを制作しています。現在は2in1で発売されている同CD(②)の中の「Fun Ranch Boogie」は、「Country Boy」のインスト版のような速弾き曲です。※ただしリーは、速弾きだけでなく、バラード



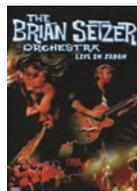
① Speedy West and Jimmy Bryant  
[Stratosphere Boogie: The Flaming guitars of Speedy West and Jimmy Bryant]



② Albert Lee  
[Speechless / Gagged But Not Bound!]



③ The Brian Setzer Orchestra  
[The Dirty Boogie]



④ The Brian Setzer Orchestra  
[Live in Japan]



# TVや映画で奏でられた ギター・インストの世界

何げなく見ているTVで、ギター・インストが使われることがあります。ニュースやバラエティでジェフ・ベックが頻繁に使われたり、『サザエさん』BGM「タラちゃんのテーマ3」なんかもエレキ曲ですね。

昭和のテレビで使われた音楽の代表がクリエーション (g:竹田和夫) の「スピニング・トー・ホールド」。プロレスラー／ザ・ファンクスの入場曲でも湯名なロック・インストの傑作です。ドラマ『ムー一族』の「闇夜のレオ (79)」はクロスオーバー／フュージョンのハシリですし、『北の国から』の劇中音楽にもアコギ・インストがありました。現代では、松本孝弘さんの「# 1090 Thousand Dreams」を『ミュージックステーション』で誰もが耳にしているでしょう (その松本さんは「スピニング・トー・ホールド」をカヴァーしています)。

海外映画のギター・インストの代表作は、イギリスのスパイ映画の主題曲「007

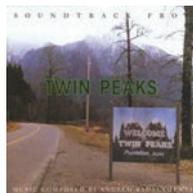
ジェームズ・ボンドのテーマ (62)」ですね。この直後にベンチャーズ旋風が巻き起こり、『エレキの若大将 (65)』で加山雄三さんが「ブラック・サンド・ビーチ」や「走れドンキー」を作曲・演奏します。同時期に、アメリカの西部劇&イタリアのマカロニ・ウェスタン映画でトランペットとギター音が多く使われ、『続・荒野の用心棒 (66)』①では歌モノのテーマ曲のギター・インスト版も知れ渡りました。『殺しの免許証 (66)』の音楽もギター・インストで、それは日本のアクションTVドラマ『キイハンター (68)』の音楽に繋がります。

そして時代劇の必殺シリーズ“仕掛人 (72)”“仕置人 (73)”のテーマは、西部劇音楽をギター・インスト・アレンジしたような曲。『傷だらけの天使 (74)』の「天使の挫折」は、井上堯之さんが弾く哀愁のギター曲。

これらは、クリーン・トーンによる単音メロディも特徴で、レスリー・スピー



①



②



# サマ〜な夜の 特選ギター・インスト集

何事にも昼の顔があれば夜の顔もあるということで、“夏物”ギター・インスト Night Cruise スペシャルというお題で一席頂戴しよう。

## ★南米篇

①バーデン・パウエルの硬派な手並みとは好対照に、サンバ、フュージョン、ボサ・ノヴァ、ジャズなどのエッセンスを縦横無尽に織り交ぜ、ソフトなトーンと節回しで聴かせるトニーニョ・オルタ。80年発表の『トニーニョ・オルタ』には、パット・メセニーが2曲で参加、『ファースト・サークル』あたりから大きく変わるパットの演奏スタイルに、じかに影響を与えた作品としても知られる。この「Era Só Começo Nosso Fim」は、妹レナが奏でるフルートと、名書家の繰り出す草書のように滑らかな手さばきのアコギのアンサンブルが郷愁をそる。

②パット・メセニー・グループのメンバー（スティーヴ・ロドビー、ナナ・ヴァスコンセロス、他）やイリアーナが参加した『ムーンストーン』。タイトル曲では、パットとの絹糸で衣を縫い合うような柔らかく仕上げのガットのデュオが楽しめる。

③バーデン直系と評されるインストウルメンタリスト、ロジーニャ・ジ・ヴァレンサのデビュー作。軽快なサンバのリズムに乗り、激しく粒立ちの濃い音色で煽るような高速パッセージを爪弾くさまは、とても22かそこらの女子の手並みとも思えない。バックで健気にリズムを刻むのはオスカー・カストロ・ネヴィス。

④やや南に下って、アルゼンチン産ギタリスト、ルイス・サリナスの96年録音のGRPデビュー作にして、ベンソン『ブリージン』でお馴染み、トミー・リピューマのプロデュース作。フュージョンをベースに中南米の音楽からの肥沃



① [Era Só Começo Nosso Fim]  
(Toninho Horta, Toninho Horta)



② [Moonstone]  
(Moonstone), Toninho Horta



③ [Tristeza Em Mim]  
(Apresentando) Rosinha de Valença



④ [La Salsalinas]  
(Salinas), Luis Salinas



# 私的ギター・インスト名演10

アーティスト名  
曲名  
収録アルバム名

名前	
ギター歴 年	
所属(バンド名)	

① 「 」	」 」	
----------	--------	--

② 「 」	」 」	
----------	--------	--

③ 「 」	」 」	
----------	--------	--

④ 「 」	」 」	
----------	--------	--

⑤ 「 」	」 」	
----------	--------	--

“あなたの名演”を記入、ぜひあなたも本書に参加してください。  
点線枠は御自身や収録アルバムの写真を貼るスペースです。

⑥ 「  
」

」  
」



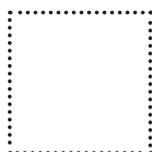
⑦ 「  
」

」  
」



⑧ 「  
」

」  
」



⑨ 「  
」

」  
」



⑩ 「  
」

」  
」



私的な名演の聴き所・オススメのポイントなど

# Conclusion

## おわりに

ギターという楽器は「コードを弾いても」「単音を弾いても」「激しく弾いても」「優しく弾いても」「喜びを表現しても」「怒りを表現しても」「哀しみを表現しても」「楽しみを表現しても」、どんなスタイルでもOK、そこに正解や不正解などありません。どんな弾き方にも必ず人の心を大きく揺さぶる道が見つけられる楽器です。そんな自由な楽器であるギターの素晴らしさの一端をムグッとつまんで教えてくれるジャンルのひとつ、それがギター・インストだと思います。

半分以上が有識者のアンケートで構成された本書。“ぜひ参加したい！……でも今はじっくりと考える時間がとれないので今回は断念します！”といったスケジュール的な理由などで残念ながら御登場いただけなかった方々もいらっしゃったのですが、ほとんどの方にはアンケートを快諾、回答していただくことができました。

御協力いただいた皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

ギタリスト、ギター講師、ギター雑誌／教本の編集者、ギター製作／リペアマンなど、何らかの形でギターに関わり、そしてギターを愛してやまない多方面の有識者からの多角的なオススメ名演を、延べ700名演以上も掲載することとなった本書。ギター・インストを聴く人（リスナー）、ギター・インストを弾く人（プレイヤー）、ギター・インストをかける人（DJ、音響効果の方）、いろいろな目的の方に有益で役立つ情報を提供させていただけたのではないだろうか。

多くの人が共通して認める名演、好き嫌いのはっきりと分かれる個性的な名演、知る人ぞ知る秘密の宝的な名演……どんな人にとっても、“知っていた名演の新たな魅力”“知らない名演に出会う喜び”といったさまざまな感動をもたらしたであろうことを願います。

本書編集担当：杉坂功太

## 有識者が選んだ! あなたの知らないギター・インストの世界!

リットーミュージック

2015年3月25日 第1版1刷発行

定価(本体 2,000円+税)

ISBN978-4-8456-2583-3

●発行所

株式会社リットーミュージック

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地

[ホームページ] <http://www.rittor-music.co.jp/>

[編集部] TEL:03-6837-4707 / FAX:03-6837-4716

[お客様窓口]

商品に関するお問い合わせ

リットーミュージックカスタマーセンター

TEL:03-6837-5017 / FAX:03-6837-5023

E-MAIL: info @ rittor-music.co.jp

[書店・取次様窓口]

出版営業部

TEL:03-6837-5013 / FAX:03-6837-5024

●発行人/編集人

古森優

●編集長

三上裕介

●編集

杉坂 功太

●デザイン/DTP

杉山 勝彦、平井 朋宏 (LOVIN'Graphic)

●写真

山下陽子 ※表紙ギター

●表紙ギター

フェンダー・ストラトキャスター(1973年製ボディ+70年代後半製ネック)

※安東滋氏所有

●印刷/製本

共同印刷株式会社

※本誌記事/写真/譜面などの無断転載は固くお断りします。

RITTOR MUSIC MARCH 2015 PRINTED IN JAPAN

© 2015 RITTOR MUSIC

ただいま **WEB読者アンケート** 実施中

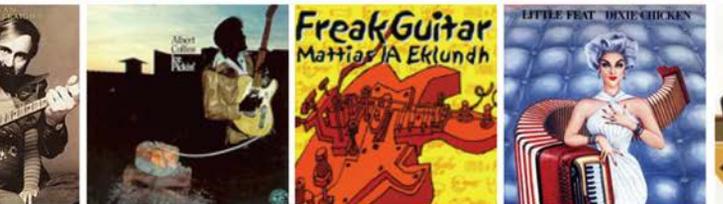
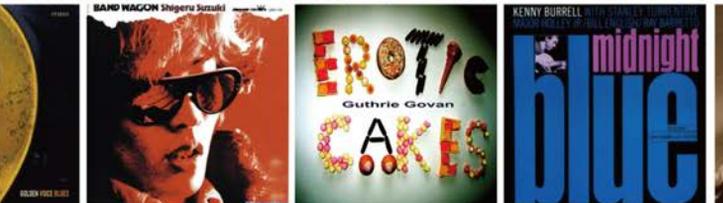
<http://www.rittor-music.co.jp/>

→上記URLにアクセス後、お求めの商品名で検索

→商品紹介ページの「読者アンケートに答える」をクリック

# Guitar

## Instrumental



ISBN978-4-8456-2583-3  
C3073 ¥2000E

**RittorMusic**

定価 (本体 2,000円+税)  
<http://www.rittor-music.co.jp/>

